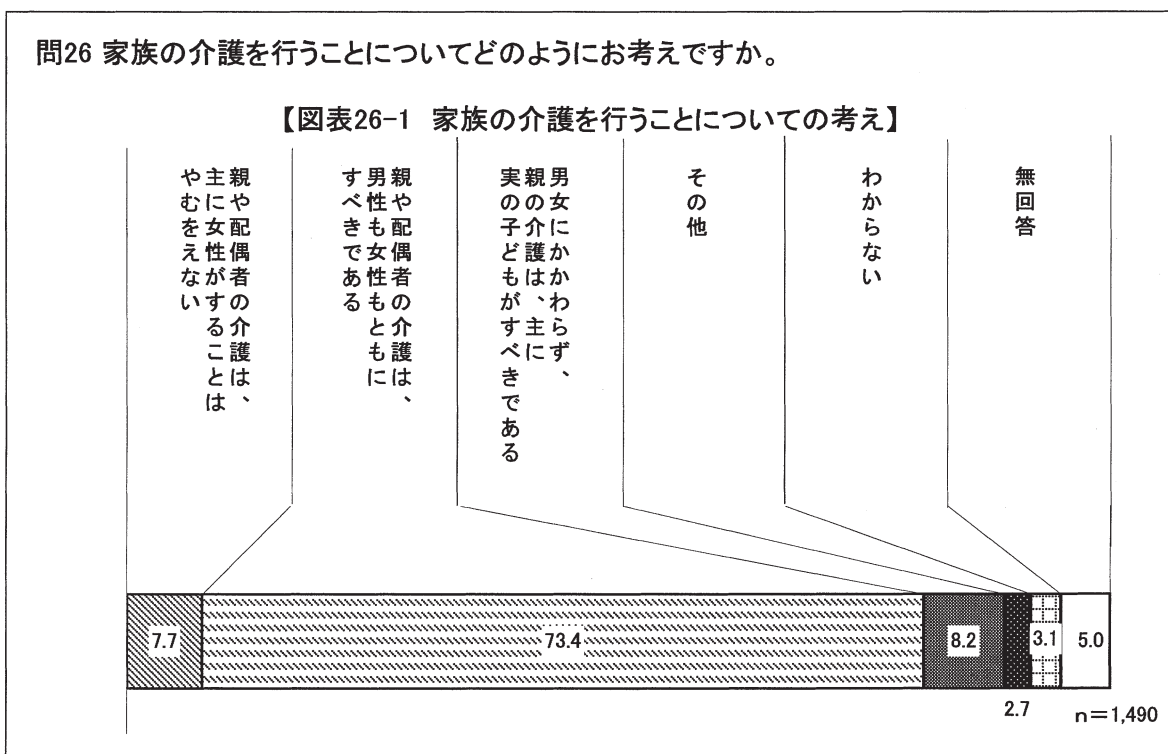


8. 介護について

(1) 家族の介護を行うことについての考え方



◆「親や配偶者の介護は、男性も女性もともにすべきである」が7割超で最多

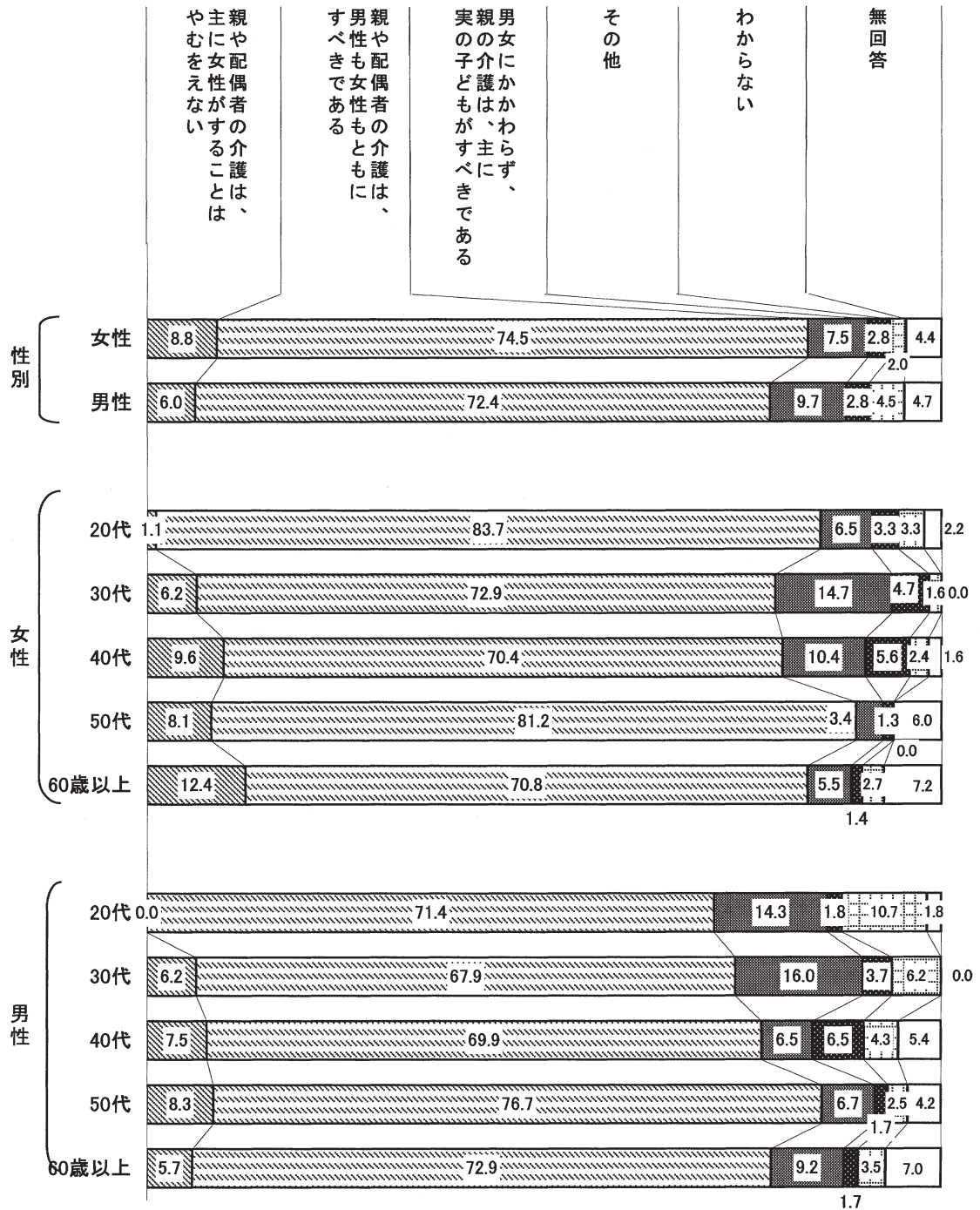
家族の介護を行うことについて、「親や配偶者の介護は、男性も女性もともにすべきである」が73.4%と最も多く、次いで「男女にかかわらず、親の介護は、主に実の子どもがすべきである」（8.2%）、「親や配偶者の介護は、主に女性がすることはやむをえない」（7.7%）の順となっている。

<性別、性・年齢別>

女性では、「親や配偶者の介護は、男性も女性もともにすべきである」が74.5%と最多となっているが、男性では72.4%となり、女性が2.1ポイント上回っている。また、「親や配偶者の介護は、主に女性がすることはやむをえない」は、女性が8.8%、男性が6.0%で女性が2.8ポイント上回っている。

年齢別にみると、「親や配偶者の介護は、男性も女性もともにすべきである」は、女性ではすべての年代で7割を上回っているが、男性では、30代と40代で7割を下回っている。

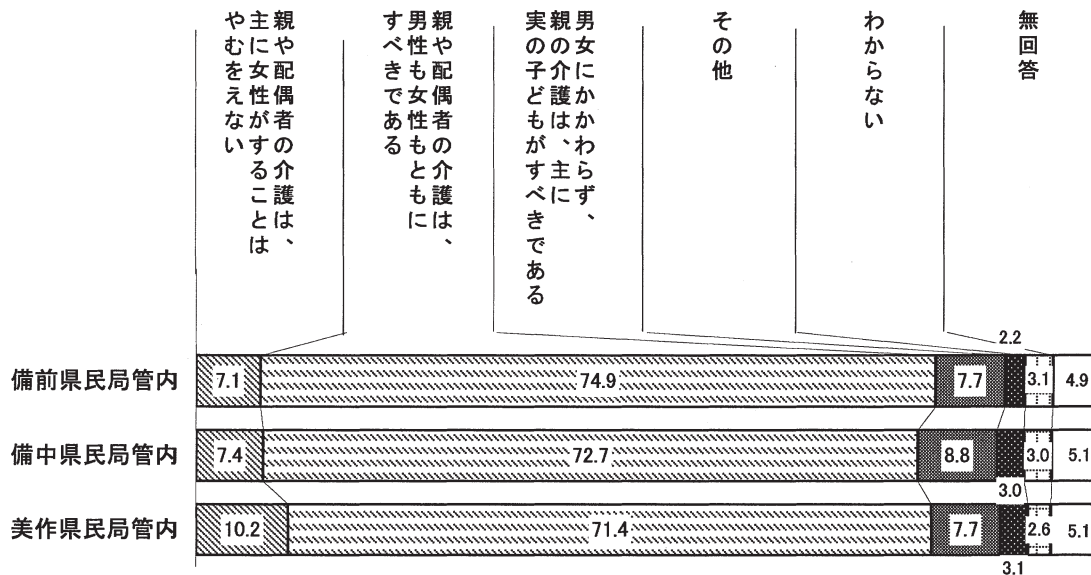
【図表26-2 家族の介護を行うことについての考え(性・年齢別)】



<地域別>

すべての県民局で「親や配偶者の介護は、男性も女性もともにすべきである」が最多となっている。美作県民局では「親や配偶者の介護は、主に女性がすることはやむをえない」が他の県民局に比べて、3ポイント程度上回っている。

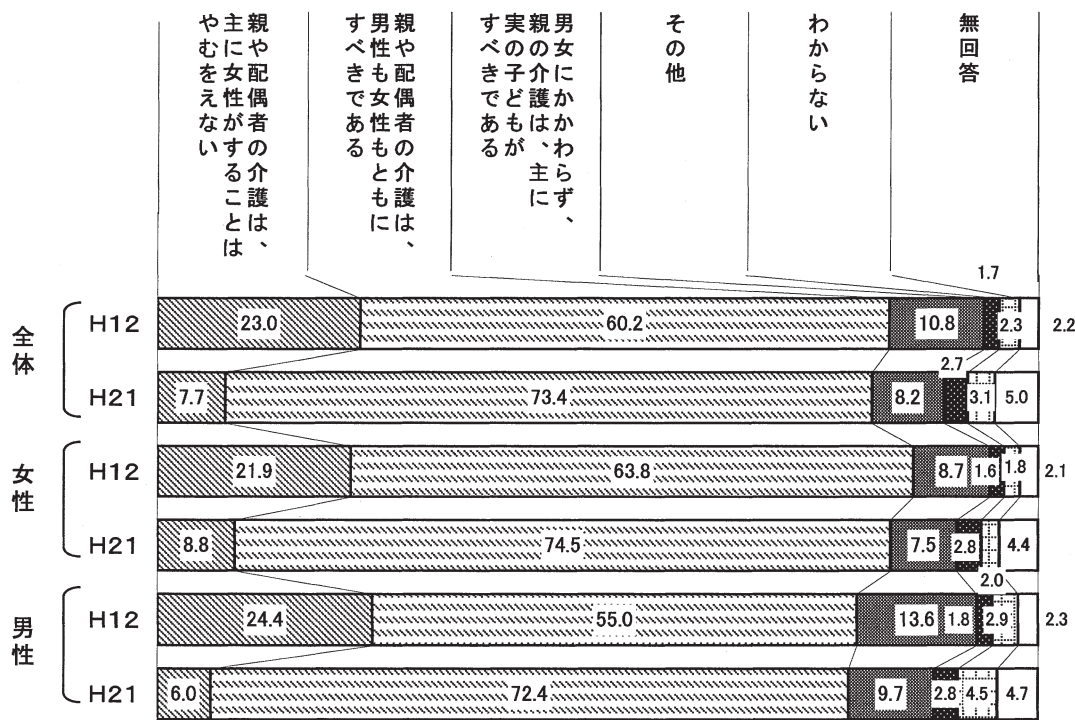
【図表26-3 家族の介護を行うことについての考え(地域別)】



<H12年調査との比較>

H12年調査と比較すると、「親や配偶者の介護は、主に女性がすることはやむをえない」が7.7%でH12年の23.0%に比べ、約1/3に減少している。

【図表26-4 家族の介護を行うことについての考え(H12年調査との比較)】

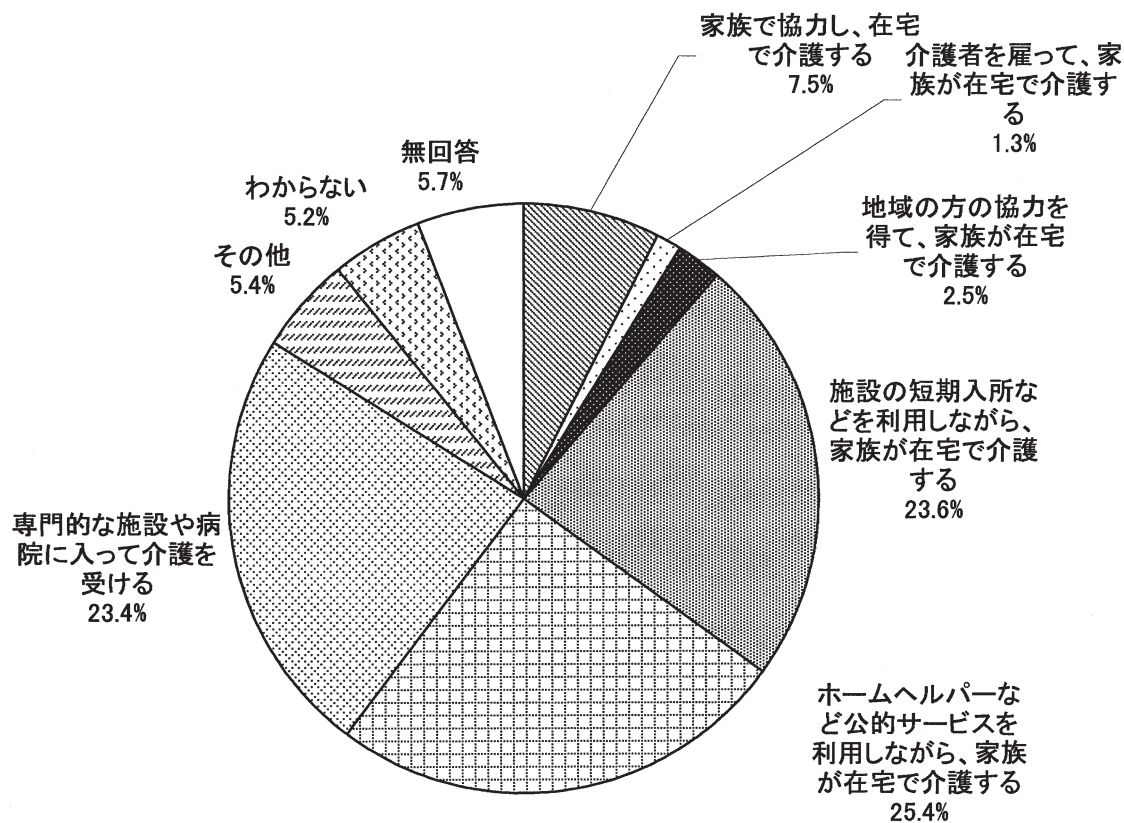


※H12年調査では、「親の介護」について尋ねている

(2)これからの家族の介護のあり方

問27 あなたは、家族の介護について、これからどのようにするのがよいと考えますか。
(○印は1つ)

【図表27-1 これからの家族の介護のあり方】



◆在宅介護を支持する層が6割

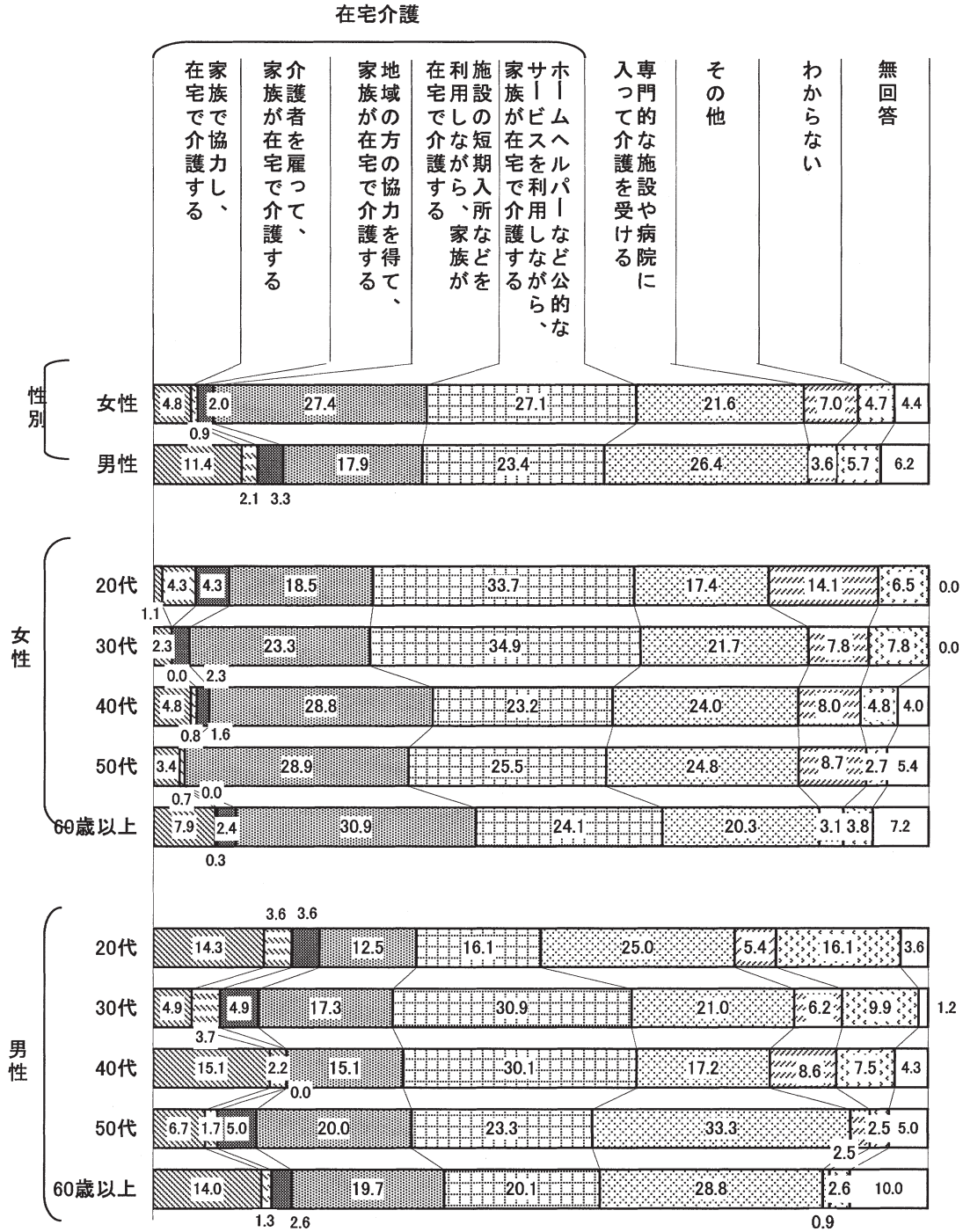
これからの家族の介護について、「ホームヘルパーなど公的サービスを利用しながら、家族が在宅で介護する」が25.4%と最も多く、次いで「施設の短期入所などを利用しながら、家族が在宅で介護する」(23.6%)、「専門的な施設や病院に入って介護を受ける」(23.4%)の順となっている。在宅介護が望ましいとする人は、60.3%となった。

<性別、性・年齢別>

女性では、「施設の短期入所などを利用しながら、家族が在宅で介護する」が27.4%で最も多いが、男性では17.9%で、女性が9.5ポイント上回っている。男性では、「専門的な施設や病院に入って介護を受ける」が26.4%で最も多い。

年齢別にみると、女性では年齢が上がるにつれ、「施設の短期入所などを利用しながら、家族が在宅で介護する」の割合が高まっている。男性では、50代、60歳以上で「専門的な施設や病院に入って介護を受ける」の割合が高い。

【図表27-2 これからの家族の介護のあり方(性・年齢別)】

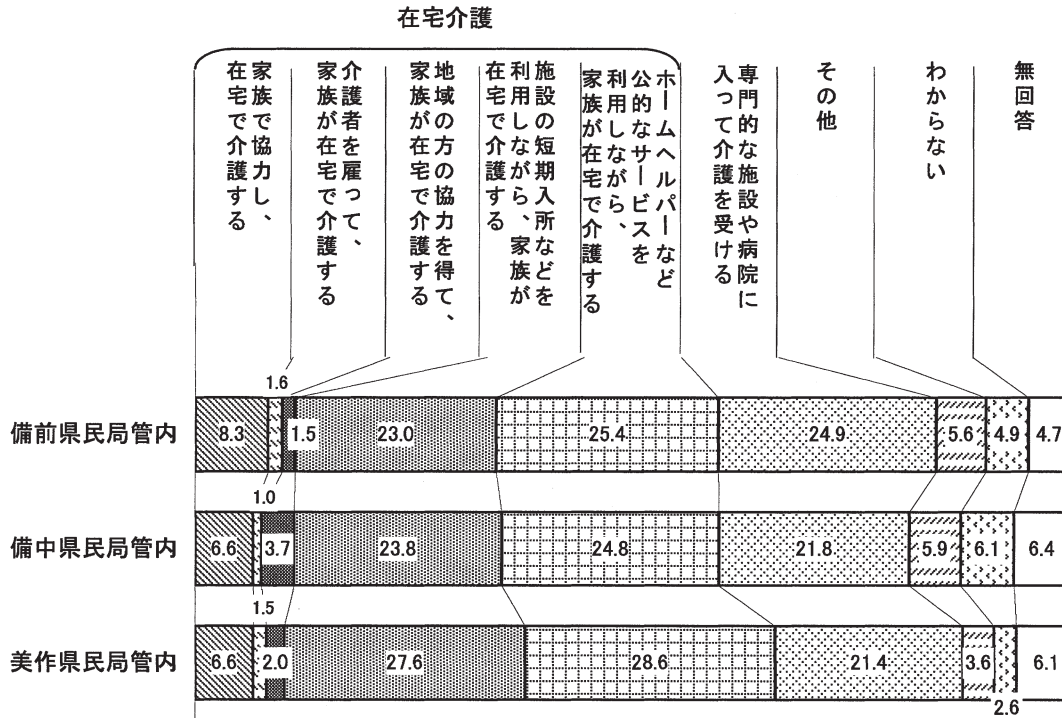


＜地域別＞

美作県民局管内では在宅介護が望ましいとする人の割合が66.3%と他の県民局管内より高くなっている。

特に、「施設の短期入所などを利用しながら、家族が在宅で介護する」と「ホームヘルパーなど公的なサービスを利用しながら、家族が在宅で介護する」の割合が高い。

【図表27-3 これからの家族の介護のあり方(地域別)】



＜H12年調査との比較＞

H12年調査と比較すると、「ホームヘルパーなど公的なサービスを利用しながら、家族が在宅で介護する」がいずれも最多で、2、3位も順位に変動はない。

【図表27-4 これからの家族の介護のあり方(H12年調査との比較)】

(単位:%)

	H21年		H12年	
1位	ホームヘルパーなど公的なサービスを利用しながら、家族が在宅で介護する	25.4	ホームヘルパーなど公的なサービスを利用しながら、家族が在宅で介護する	28.7
2位	施設の短期入所などを利用しながら、家族が在宅で介護する	23.6	施設の短期入所などを利用しながら、家族が在宅で介護する	20.9
3位	専門的な施設や病院に入って介護を受ける	23.4	専門的な施設や病院に入って介護を受ける	17.2